

2017 年 8 月 8 日、9 日。今までの人生で一番、多くのことを学んだ最高の 2 日間でした。「壁から逃げない。集中力と持続力が大切。集中して取り組み、その分野で 1 番になれるように頑張るんだよ。」

これは、1 日目の午前に行われたディレクトフォース・笹川平和財団夏期プログラムでの、私の「新製品を開発する上で、壁にぶつかったときはどう対処しますか？」という質問に対する、キューピー株式会社で新製品開発を行い、中国での勤務経験もある守屋雅夫様の答えです。この言葉に私は衝撃を受けました。続けて、守屋様は新製品の開発で大失敗をしてしまった経験について話してくださいました。

失敗した商品は、当然売れません。守屋様が開発で使う工場には、返品された商品が山積みになってしまっていたそうです。上司や同僚から、「まだやっているのか。」など、冷ややかな言葉もかけられたそうです。それでも守屋様は何度も何度も修正を重ね、一人開発を続けました。その結果、守屋様は誰にも負けない技術を手に入れました。かつて、守屋様に冷ややかな言葉をかけた人々から、「分からないことがあればあの人に聞け。」と言われるほどの技術を手にしたのです。

まさに、守屋様は新製品開発における壁を、逃げずに乗り越えたのです。守屋様はこうもおっしゃっていました。「全力でやったことはマイナスにはならない。」強い人だ。守屋様のお話を拝聴している時、私はそう思いました。部活でも勉強でもそれ以外のことでも、秀でていること、誰にも負けないこと、自慢できること、1 番だ！と胸を張って言えることが私にはありません。正直情けなくて、悔しいです。そんな私にとって、守屋様の言葉は衝撃であり、感動と勇気を与えてくれるものでした。私も 1 番になりたい。忘れかけていたそんな気持ちを、思い出させてくれました。そしてこれからもこの言葉はきっと、凡庸な私を励まし続けてくれるでしょう。

近藤玄大様の基調講演では、物事を見る新たな視点を発見することができました。環境の変化が障害につながることで、例えば”右利き用”という前提条件に合致しなければ、左利きも障害になりうることで、目立たせないようにするために高価になっていた義手を、目立たせることをやめ、個性として認めることで安価にし、気軽な選択肢にすることなど、私が今まで考えたこともなかったようなことをたくさん思いついていることに、ただただすごい！と感じる他ありませんでした。また、「技術」+「ビジネス」+「デザイン」など、技術だけでなく、他にも色々な要素が大事になってくる、ともおっしゃっていました。グループセッションで、キューピーの守屋様も、「中身」+「生産ライン」+「営業戦略」など、中身に+αしないと商品は売れないんだ、というお話をされていて、直接的なものに加えて、さまざまな要素が必要であるということは、義手や調味料だけでなく、あらゆることに共通して言えることなのだなあと感じました。

東レにて、プラスチック関連の国内外営業、海外の事業運営に携わった経験があり、現

在は国連 WFF（世界食糧計画）協会のエクスペリエンツボランティアとして活動していらっしゃる水口泰介様からは、飢餓についてのお話をグループセッションで伺いました。現在、世界で 800000000 人、9 人に 1 人が飢餓の状態にあるそうです。この事実を初めて知り、その多さに私はとても驚きました。日本では 630 万 t もの食糧が無駄になっているそうです。このような食糧の無駄を、フードロスといいます。私はフードロスは大量製造が原因なのだろうと予想していたので、大量製造をやめれば大量廃棄を防げるのではないかと考えていました。しかし実はそうではなく、大量廃棄につながっているのは、大量製造の次の段階にある大量流通だそうです。企業と国連の活動を繋げ、格差を小さくすることで大量流通は緩和されます。それに大切なのは、自分の考えを言葉にして伝えることが大切だと水口様はおっしゃっていました。これも、国連と企業の間だけでなく、あらゆることに共通して言えることなのだなあと感じました。自分の考えを言葉にして伝えることは意外と忘れられがちなのではないかと私は思っています。私もしっかりと自分の考えを言語化して相手に伝えることを意識していきたいです。

その日の午後、経済産業省への訪問でも、新しいことを学びました。私たち 14 班は、経済産業省広報室の小沢佳代様にお話を伺いました。経済産業省への訪問が決定する前、私は経済産業省などの省庁に対して、ずっとデスクワークをしているというイメージを抱いていました。しかし、実際はそのイメージとは異なりました。経済産業省の中でも、部署によって仕事の内容が全く違い、部署を異動したときは、転職したような気持ちになることもあるそうです。日本の企業のうち、99.7%もの割合を占める中小企業。TPP を追い風に、がんばる中小企業を応援することが、国民生活の根幹の応援になると聞いたときは、なるほどなあとすごく納得しました。また、やりがいとは何かという質問に対しては、現場の人たちの話を聞いて、目に見える形で生活者支援ができること、と答えていただきました。経済産業省について、基本的なことから、細かいことまでたくさん、丁寧に分かりやすく教えていただいたことで、視野を広げることができました。経済産業省を訪問して良かったなと心から思いました。

そして、夜には二高 OBOG の先輩方との座談会が行われました。先輩方は、東京大学についてのことや、高校時代のことなどを話してくださいました。先輩方のお話はとても分かりやすく、頭にスッと入ってくるようでした。私は人に物事をうまく伝えるのが苦手なので、私もこんな風になりたいなあとという憧れや、東京大学に対する興味も抱きました。ア・カペラサークルと LEGO のサークルに所属している OB の先輩からは、大学のサークルとはどんなものなのかや、部活動とサークルの違いを教えてください、勉強や、東京大学の制度以外のことも知ることが出来て楽しかったです。

翌日、9 日は東京大学の見学でした。午前中に行われたワークショップでは、今までぼん

やりとしか考えてきていなかった自分の進路について、真剣に考えることができました。午後はキャンパス見学と個別相談会が行われました。私は東京大学のことを全然知らなかったのですが、キャンパスを見学して、キャンパスの広さや建物の立派さに驚きました。個別相談会では、東京大学のこと、勉強のことから部活動のことまで、さまざまなお話を学生の方々から拝聴することができ、良い経験になりました。私は初対面の人となかなかうまく話せないのですが、学生の皆さんが優しく、あまり緊張せずにお話をする事ができ、とても楽しかったです。

今回の 2 日間の東京方面企業大学訪問で、本当にたくさんの新しいことを学び、大きく成長するためのヒントを掴むことができました。参加して本当に良かったと思っています。このような素晴らしい経験をさせてくださった、ディレクトフォース・笹川平和財団の皆様、経済産業省の小沢佳代様、二高 OBOG の先輩方、東京大学 FairWind の皆様、添乗員の吉田さん、そして先生方、感謝してもしきれません。本当にありがとうございました！